

鉄鋼短期大学

1. 大学の紹介

鉄鋼短期大学は尼崎市に在り、次の4学科を設置している。鉄鋼工学科(25+25)、機械工学科(80+60)、電気工学科(100+40)、溶接構造工学科(25+25)。ただしカッコ内は定員で1年次2年次を示す。別に教養科目のため共通の教養部をもつ。学生は会社派遣と一般学生からなり、外国人も若干受入れている。両者の比率は約50:50であるが学科により多少の開きがある。詳細は入学案内によられたい、企業における専門技術者の育成を目的としている。

2. 情報処理工学コース

電気工学科は電気工学、電子工学、情報処理工学の3コースに分かれており、定員は合計で100名である。情報処理工学コースは61年度より新設されたもので、現在はまだ1年次学生だけである。鉄鋼といえどかく男性の職場とされているが、このコースは女性も入学でき歓迎されている。オペレーションズ・リサーチはこのコースの2年次の専門基礎講座となっており、来年度から開講されることになっている。

3. 鉄鋼業はOR問題の宝庫

高炉転炉などの原料配合問題(LP)、高炉の改修、主要設備の定期修理(PERT)、圧延条件、納期などを組合せた工程計画、在庫管理など、OR問題の宝庫といえよう。

四方が海である日本の、数万tの船を横付できる港のある鉄鋼所と、高々3千t級の船しか航行できない河川にたよる欧米の鉄鋼所とは格差は明白である。一方、発展途上国の砂漠のような広大な天然の材料置場と日本の狭い倉庫とを比較した場合、その使いやすさが将来問題となるのではなからうか。鉄道の貨車操車場とトラックの集配センターとの比較のように、円高対策の合理化計画とともにOR的発想の必要な所である。(在庫管理、特に現品の管理)

4. ORを使いやすい方式に

欧米の管理方式が命令型であるのに対して日本は了解型である。したがって下意が上達しやすい利点はあるがそれだけ中級あるいは下級幹部にその能力を求めることになる。品質管理がSQCからTQCへと理解しやすい方式に発展したように、ORにもそれを期待したい。鉄鋼業の技術系幹部は冶金学科出身者が多く、化学は得意だが高等数学は不得手という方が多い。それらの方々も含めて、もちろん学生自身も容易に理解できるよう平易にしたORを希望します。弁慶の七つ道具のように、利用度の高いものについて平易に使いこなせるものを求めます。難問に対する立派な解法より、どれだけそれで利益をあげたかの説明をお願いします。大型コンピュータが宝の持ち腐れにならないためにも。

(山本 昌)

滋賀大学 経済学部 管理科学科

滋賀大学経済学部は琵琶湖畔の小都市彦根にあります。彦根市は旧くからの城下町で、中心に位置する彦根城は幕末に活躍した井伊大老の居城でしたが、戦災を免れて城下町の雰囲気は今によく保存しています。経済学部はこの城の外堀に面しておりますので、研究室からはいつも天主閣を眺めることができます。ただ彦根は今冬のさなか、北陸からやってくる冷たい季節風が暗い湖面を渡り、城に激しく吹きつけています。荒涼たる冬景色

で、研究室にこもってひたすら研究に没頭しうる季節のはずですが、窓から北の方角には伊吹山が雪を頂いているのが見え、スキー愛好者には落ち着けない季節でもあります。やがて春ともなれば、城の梅や桜が咲き誇り、特に今年は「世界古城博覧会」なるアトラクションがあります。OR誌の読者の皆様のご来彦をお勧めする次第であります。長くなるので彦根の観光案内はこのくらいにしておきましょう。